

## 第77回福島大学経営協議会議事要録

1. 日 時 平成28年7月8日（金）13時30分～15時35分

2. 場 所 福島大学事務局棟 第2会議室

3. 出席者

【学外委員】阿部正、斎藤美幸、田原博人、富田孝志、林由美子、  
深澤秀樹

【学内委員】中井勝己、中田スウラ、三浦浩喜、小沢喜仁、若井祐次、  
千葉養伍、久我和巳、阿部高樹、二見亮弘

〔オブザーバー〕 副学長：真田哲也、千葉悦子

4. 欠席者

【学外委員】伊藤泰夫、清水潔、早川信夫、八島洋一、渡邊博美

5. 議 事

### 【審議事項】

- (1) 平成28年6月期勤勉手当に係る副学長・学類長業績評価について
- (2) 平成29年度概算要求について
- (3) 農学系教育研究組織の設置について

### 【報告事項】

- (1) 役員の報酬及び職員の給与水準の公表について
- (2) その他

議事に先立ち、中井学長から挨拶があった。

### 【確認事項】

なし

### 【審議事項】

- (1) 平成28年6月期勤勉手当に係る副学長・学類長業績評価について  
中井学長から、資料1に基づき、平成28年6月期勤勉手当に係る副学長・学類長業績評価について提案があった。  
審議の結果、原案のとおり承認された。

(2) 平成29年度概算要求について

若井理事・事務局長から、資料2に基づき平成29年度概算要求について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(以下、◇はその議題に関する学外委員からの質問・意見、◆は大学側の回答等を表す。)

◇新たな取組みについて検討しているようだが、これらすべてに予算がつくわけではないようなので、今福島大学がやりたいことをどのように示していくのがポイントになってくるだろう。取組みに対しても精査する必要があるだろう。

◆出された取組みについてこれから整理していき、来年度の戦略に合うものを中心に選んでいきたい。

◆整理していくということ言えば、既存組織の再編に向けて検討を始めたところであり、学内組織の一定の整理についてもある程度の想定をしている。

(3) 農学系教育研究組織の設置について

中田理事・副学長から、資料3に基づき、福島大学農学系人材養成機能のあり方に関する協議会から学長に提出された「福島大学農学系人材養成機能のあり方に関する最終報告書」の概要について説明があった。続いて中井学長から、本学における農学系教育研究組織の設置年度及び立地について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

◇農業という観点で大学として社会と連携をとりながら進めていけば、地域の再生、活性化といった大きな研究課題につながるだろう。日本の地域社会の活性化を図る見本のようなものを示すことができれば、波及効果は大きいのではないか。また、現在取り組んでいる地域連携事業などとの連携をより深めることや、他大学・他機関との協力も必要になるだろう。また既存組織の再編を検討するということが、どのような意見が出ているのか。

◆新たな組織は作るが、既存組織の縮小は避けたいところである。また全学の教育改革も進めており、予測不能なこれからの社会に立ち向かっていけるような学生を輩出するための教育を展開したいと考えている。大学全体で課題や問題を解決していく学び（PBL：プロジェクト・ベースド・ラーニング）について、特

に震災以降の知見を生かして取り入れることを検討している。

◇何を目的とするかを決め、そこへ向かって体制を決定していく必要はあるだろう。今まであるものを守るのではなく、何かに特化して充実させていくことが重要であり、最終的に大学全体が発展するようにしてほしい。

◇学内資源の有効活用もより促進していくのが良いだろう。分野ごとの専門家ではなく、将来的に広い視野を持った人材が専門分野でも活躍できることにつながるよう、他学類履修などをもっと活用できるといいだろう。また、地域社会に学生が入ることで発展したとしても、一時的なものであるかもしれない。地域に出たり、専門以外の学問に触れ学生同士が刺激し合いながら、最終的に地域を活性化させていけるような人材を育てられるようにしてほしい。

◆地域の様々な課題をつなぎ合わせ、異なる分野の学生が知識を持ち寄って PBL を展開できる、フィールドを基とした実践的な教育を構築することは難しいだろうが、最終的に全学共通科目等の創設のように、教育カリキュラムの中に位置付けられるものを検討していきたい。

◇説明を聞くと、現在は学内資源のみを活用しようとしているように見える。可能であるならば、大学とは別組織の法人等を立ち上げ、第3セクターのように分野を横断した総合的な研究体制を作ることも考えられるのではないか。外部人材を有効に活用し、フィールドトレーニングのような実務的な勉強や学士も取得できるような農業人材の育成コースを作ってもいいように思う。

◇例えば新たな附属研究所として、他大学とは違う大胆で挑戦的な課題に取り込むことで、学生や社会の関心を引きつけるような発想の附属施設を設置するのはどうか。既存の枠組みに囚われず、将来を見越した挑戦的で社会にオープンなものであると良いのではないか。

◇検討しているような、大学全体で課題解決型の教育を取り入れることがその通りできればいいのだが、学生が4年という時間でそれらをきちんとこなせていけるかは心配である。何か工夫をしないと実現できないのではないか。

◆新しい取組みを行う際に、大学の中だけではやりきることは難しいため、外部との関係を持ち連携していくことができればいい。協力いただけるようにやっていきたい。また学生の4年という限られた時間の中でやりきれぬかといった

ところは我々も心配しているところではあるが、そういったことも含め、現在授業の組み方を検討しており、学生にとって充実したものを作っていければと考えている。

- ◆主に農学系に関しては全県を挙げてオール福島で支援をしていきたいと考えている。そこから、委員もおっしゃっている実践センターのような提案が学内でも出てきており、現在議論しているところである。大学単体で自己完結するのではなく、様々な組織と連携を図りながら組織を大きくしていく方向で考えている。

#### 【報告事項】

##### (1) 役員の報酬及び職員の給与水準の公表について

中田理事・副学長から、資料4に基づき、給与水準の公表が義務づけられており、毎年度公表している常勤役員の報酬の支給状況、職員の給与水準、人件費の状況、総人件費の取組状況の概要について説明があった。

##### (2) その他

特になし